

# 質の高い診療情報管理士を目指して

長澤 哲夫  
北里大学東病院病歴室長  
専門課程小委員会委員

新しい年を迎えて新たなる目標を抱いた方も多い事と思いますが、今年はどうな年になるのでしょうか。受講生の皆さんの学習環境はいろいろだと思いますが、共通していることは仕事に追われて勉強に割ける時間があまり取れなかった事かと思います。今、2年間の学習を終えて認定試験を控えたみなさんは、最後の追い込みに余念が無いことと思いますが、管理士認定後のビジョンをどう描いているのでしょうか……。

さて、「病院機能評価」は病院が提供している医療の質がどうか、つまり医療の中身がどうかを評価することで、今年は機能評価の幕開けから数えて10年を迎えます。

医療の評価をする資料として重要なものは、「診療記録」であることは誰もが知っている事ですが、それを評価にどのように役立てるかはあまり知られていない事です。

診療記録の目的が、患者ケアの計画や患者の状態、治療の評価を継続的に記載したものであり患者の医療評価や治療について経過や病態の変化を文書によって明らかにするものであるならば、診療記録の中に記載されているすべてがその病院の「医療の質」そのものであり、患者が安心出来るどんなに素晴らしい医療が行われていてもその記録が不十分な状態であるとなれば、それを見ることは出来ないことになるでしょう。

そこで、診療情報管理士として診療記録記載の啓蒙とともに、診療記録の中身を点検し、医療の質を測るに必要な情報が十分に記載されているかに重点をおいて業務を進めていくことが大事です。例えば、適正な用語が使われていて、日付や記載者の署名とともに、正確な文字で記載されているかという簡単な点検から、正確な診断名、日々の医療行為が経過記録の中で、記録内容が医療行為と合致しているかどうか、看護記録との整合性があるか、患者及び家族に説明された医療内容が何時誰に対して、どのような方法で行われて、患者や家族はどの程度に理解して了解したのか、詳細なる点検が必要になって来ています。電子カルテが導入されるようになると尚更のことです。

今、診療情報管理士を目指して通信教育を受講されて勉強している人は、管理手法の基本を学習しているのですが、こんなことで将来役立つ知識が身につくのかと迷う事もあるかも知れません。これは診療情報管理士を目指す全ての人が通る道なのです。

大事なことは診療情報管理士となった人にとって、この学習で身につけた基本的な事を応用できるように、更には質の高い診療情報管理が出来るようになるために、継続した学習を続けていく必要があります。そして診療情報管理士として大成していくには、現在されている学習以外にも現状の医療の流れや動向にも関心を持ち、自らこの方向への学習も合わせて進めていって下さい。診療情報管理によって「医療の質」を高めることに役立つ診療情報管理士を目指してほしいと願っております。